

顎骨の整復を行い良好な結果を得た2症例を経験したので報告した。

症例1: 21歳, 男性。現病歴: 交通事故にて顔面損傷し, 救急車で当院に搬送され, 即日入院となった。現症: 鼻根部は陥凹し, 上顎正中の離開と上口唇および口蓋正中部に裂創を認めた。X線写真所見: 口蓋正中部の縦骨折を伴ったLe Fort II型の骨折と考えられた。処置および経過: 全麻下に上顎骨の正中離開および頬骨上顎縫合の骨折に対して観血的整復固定術を施行したが, 上顎骨の正中離開および後方位は十分に是正することができなかつたため, 術後, 顎間ゴム牽引を行うとともに, MPAを併用して上顎骨を前方へ牽引し, 咬合の回復をはかった。術後約2か月で咬合関係も良好になり, MPAの使用を終了した。

症例2: 21歳, 女性。現病歴: 交通事故にて顔面損傷し, 救急センターに搬送された。全麻下で鼻骨骨折の整復, 裂創部の縫合および鼻出血の止血処置を受けた。その後, 咬合の異常を認めたため当科転院となった。現症: 鼻根部は陥凹し鞍鼻を呈し, 左側頬骨部の軽度な突出を認めた。上顎中切歯間は3mm程離開し, 上顎骨が後方位に位置していた。X線写真所見: 口蓋正中部の縦骨折を伴ったLe-Fort II・III型の骨折と考えられた。

処置および経過: 入院後, 顎間および顎内ゴム牽引を施行し, 同時にMPAを併用上顎の前方牽引を開始した。牽引後約10日で正中離開も改善され咬合状態も回復した。

まとめ, 1. 上顎骨骨折2症例に対してMPAを併用して上顎骨の整復を施行し, 良好な結果を得たので報告した。2. 顎外牽引装置としてのMPAの使用は, 簡易で有効な方法と思われた。

#### 4. 重付加型シリコーン印象材(インプリンシス)とトレー材料との接着強さに関する検討

飯島進吾, 村上 聡, 奥山弥生, 細谷 誠, 笠原 紳, 依田正信, 木村幸平 (歯科補綴学第一講座)

支台歯トレーを併用した弾性印象材による印象法において, その効果を十分発揮するためには, トレー材料と印象材とが強固に接着していることが必要条件となる。今回, 付属接着剤が良好であるといわれる重付加型シリコーン印象材(インプリンシス)によるレジンの接着試験を行い, 従来の重付加型シリコーン印象材(エグザファイン他2種)と比較し, その接着強さについて検討した。

その結果, インプリンシスの接着強さは, Regular Type, Injection Typeで, それぞれ平均0.97, 0.94 MPaであり, エグザファインのRegular Type, Injection Typeと比較し, 有意に大きかった。引張試験後のインプリンシスの破断面は, Regular Type, Injection Type, いずれもほとんどの部分が印象材内での凝集破壊を呈していた。一方, エグザファインのRegular Typeは, 接着剤と印象材との間の界面破壊を, Injection Typeでは, ほとんどが界面破壊を呈する混合破壊であった。トレーと印象材の接着を考えた場合, 一部でも剝離を起こすと印象の変形につながる。接着に関しては凝集破壊を起こす方が, 臨床的には望ましいと考えられる。

従って, 本実験の結果からみると, インプリンシスシリコーンアドヒシブの接着効果は大きく, 支台歯トレーを併用した印象法への可能性が示唆された。

#### 5. 上顎智歯部の奇形歯

##### — 著しい異常結節をみた1症例 —

鈴木孝裕<sup>1,2</sup>, 新田康隆<sup>2</sup>, 清水良央<sup>3</sup>, 熊本裕行<sup>4</sup>, 川村仁<sup>2</sup>, 菊地正嘉<sup>3</sup>, 大家 清<sup>4</sup>(<sup>1</sup>大学院, <sup>2</sup>口腔外科1, <sup>3</sup>口腔解剖1, <sup>4</sup>口腔病理)

歯の形の異常は遺伝・環境要因等により生じるといわれるが成り立ち・意義は不明である。今回, 上顎智歯部に咬合面の著しい形態異常を有する奇形歯を経験したので報告する。

[症例] 30歳, 女性。家族歴・既往歴に特記事項はない。8]部歯肉の腫脹・疼痛の主訴で, 東北大学歯学部附属病院第1口腔外科に紹介された。口腔内所見: 8]部に半埋伏の形態異常歯がみられ, 周囲歯肉には軽度の腫脹, 発赤, 圧痛がみられた。X線所見: 8]部の歯牙様不透過像は大小の境界不明瞭な2歯から構成されていた。周囲歯槽骨に異常所見はみられなかった。処置: 8]部奇形歯および歯冠周囲炎の診断で, 局所麻酔下で一塊として抜去した。

[抜去歯の所見] 肉眼所見: 矮小歯(近心頰側)と中心結節を有する開花状の歯(遠心側)との歯冠および歯根の癒合がみられた。歯冠部には中心結節と辺縁全周に多数の咬頭状結節がみられ, 歯根は短く円錐状であった。軟X線所見: 2歯は歯冠と歯根で連続性に癒合がみられ, 歯髓腔は髓室を共有し, 2根管を有していた。光頭およびCMR所見: 2歯はエナメル質, 象牙質, セメント質, 歯髓より構成され, それらの構成物は一歯の如く連続していた。中心結節の大部分はエナ